

アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法

盛岡市医師会 千葉 隆史



①アレルギー性鼻炎とは？

アレルギー性鼻炎はくしゃみ、鼻水、鼻づまりなどがアレルギー反応によって起こる病気です。この病気の代表には杉の木の花粉が原因でおこるスギ花粉症やダニによっておこるダニアレルギー性鼻炎があります。

日本のスギ花粉症は1964年に栃木県の日光で初めて見つかった病気ですが、その後この病気に罹る人が急激に増え続けています。環境省の統計では1988年には日本人の16.2%がこの病気に罹っていましたが、2008年には23.4%となっています。ダニが原因で起こるアレルギー性鼻炎と合わせた人の割合は39.4%で、日本国民の約4割がアレルギー性鼻炎に罹っています。またアレルギー性鼻炎になる人の低年齢化が進み、小学生でアレルギー性鼻炎に罹っている児童の割合は2012年に約30%になっています。これは同じ様なアレルギー反応が原因で起こる気管支喘息やアトピー性皮膚炎と比べて増加の仕方が特に多くなっています。しかもアレルギー性鼻炎は自然寛解(病気が自然に治ること)が少ないことが特徴です。

②アレルギー性鼻炎の治療

治療の基本はスギ花粉症ではスギの花粉を避けること、ダニアレルギーでは掃除などによりほこりやダニを減らすことです。それでも症状が出てしまうようであれば薬を使います。最新の薬は眠気のほとんどない薬、食事時間などに関係なく1日のうちいつ飲んでもよい薬、効果の特に強い薬などそれに長所があり、各人の病気の重症度やライフスタイルに合わせた選択ができます。また飲み薬以外にも鼻に噴霧するスプレーイタイプの薬や皮膚に貼るタイプの薬もあります。しかしこれらのアレルギー性鼻炎薬での治療は症状を抑えたり軽くするための治療(対症療法といいます)です。小さいうちに罹ってしまった患者さんは数十年にわたってこの対症治療が必要になる場合も多くあります。



一方、このアレルギー体質自体を治す、または長期間に渡り症状を軽くする事を目的とする治療方法(原因療法といいます)にアレルゲン免疫療法(減感作療法)があります。

③アレルゲン免疫療法について

アレルゲン免疫療法は、スギ花粉やダニなどアレルギーの原因となる物質(アレルゲン)を少量から投与することで体をアレルゲンに慣れらし、アレルギーを治す事を目指す治療法です。3年以上続けて治療した場合にはアレルギーがなくなったり、長い年月わたり症状をおさえることができる可能性があります。また完全におさえられない場合でも症状を和らげ薬の使用量を減らすことが期待できます。この治療は欧米では広く行われておりその効果も証明されています。

①皮下免疫療法

皮下免疫療法は、アレルギーの抗原エキスを少ない量から皮下注射で投与する治療法です。この治療での大きな課題はショックなどの重いアレルギーの副作用が起こりうることです。注射による皮下投与法ではアナフィラキシーショックと呼ばれる最重症の副作用がおこる頻度は0.13%、約800回の注射に1回の割合でおこり、決して希な数ではありませんでした。

②舌下免疫療法

注射による皮下免疫療法に代わる新しい方法として注目されているのが舌下免疫療法です。日本では2014年にスギ花粉症、2015年にはダニのアレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法が健康保険適用により治療が開始されました。当初は12歳以上を対象に始められましたが、その後新たな研究により現在は5歳以上で行われています。この治療は抗原エキスが含まれる錠剤を1日1回舌下(舌の裏)に投与し1分間そのまま保ち、その後飲み込むものです。舌下免疫療法は皮下免疫療法に比べ、注射の治療ではないので治療に伴う痛みがないこと、自宅で薬を服用するので病院に頻回に通院する必要がなくなる、副作用に関しては舌下免疫療法の方が安全性が高いなどの長所があります。

私どもの診療施設では4年間で約120人の患者さんがこの治療方法を開始し、6か月以上治療を行った方では「症状が全くなくなった」、「アレルギーの症状が軽くなった」という「改善」を示した方の割合は85%を超えていいます。また治療を開始して1年目よりも3~4年目の方が効果が高くなっています。少なくとも2年間は、できれば3~5年間の長期間に渡って治療を続けることが望ましいと考えられています。

4 新しいアレルギー発症と喘息発症の予防効果

舌下免疫療法には鼻アレルギー・眼のアレルギー症状への効果の他に新たなアレルギーの発症の予防効果があることが知られています。ある研究ではダニアレルギー性鼻炎の患者さんは15年が経過すると全員がダニ以外の花粉症など新しいアレルギーが起こったのに対し、舌下免疫療法を3年間治療を行った人では新しいアレルギーが起こったのは21%、5年間治療を行った人では11%でした。その他に舌下免疫療法には喘息の発症の予防効果があります。小児のアレルギー性鼻炎患者さんで舌下免疫療法を3年間実施した144人のうち3年後に喘息を発症したのは2人(1.5%)だったのに対して舌下免疫療法を行わなかった72人では19人(28.2%)が喘息を発症しました。このように舌下免疫療法には新しいアレルギーの発症の予防効果と喘息発症の予防効果が期待できるとされています。

5 最後に

小さいうちにアレルギー性鼻炎に罹ってしまった患者さんは数十年にわたって対症治療が必要になる場合も多いことから、今後はアレルギーを根本から治す治療の方法に世の中の流れがシフトしていくと予想されます。これにより重症患者さんの病気がコントロールされるようになり、多くの患者さんが恩恵を受けると思われます。しかし副作用がないわけではありません。また舌下投与法は皮下注射法と異なり医療機関で行われるのではなく各家庭で行うことになりますので、治療を受けるにあたってはアレルギーに精通した専門医とよく相談を行ってください。

アレルゲン免疫療法を希望される方は下記のURLより、アレルギー舌下免疫療法相談施設から検索して下さい。

URL <http://pkg.navitime.co.jp/slitr-cdt/> QRコードはこちら▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶

